



門沢橋コミュニティセンターの  
現状と今後について

創志会 市川 敏彦



門沢橋コムセンと有馬図書館

問 地域「コミュニティの活動拠点である「コミュニティセンターは、地域の特性を生かすべく、地元自治会や関係団体の代表者からなる管理運営委員会が管理運営を行っていますが、一部の管理運営委員会からは、負担が多く管理運営を返上したいという声が上がっていると聞いています。

門沢橋コミュニティセンターは有馬図書館との複合施設となつており、有馬図書館と門沢橋コミュニティセンターの管理運営については、一体管理が望ましいと考えています。こうした状況を踏まえ、門沢橋コミュニティセンターの管理運営について、現在の検討状況と施設の改修計画について伺います。

答 (市長)：門沢橋コミュニティセンターは、有馬図書館との複合施設となつてることから、地域のコミュニティ機能を有した新たな複合施設として一体管理に向けた検討を進めています。また、改修計画については、複合施設ならではの魅力を最大限に発揮するため、既存機能の充実と新たな複合施設としての機能強化、充実を図っていきたいと考えています。

なお、改修時期については、平成32年度を目標に準備を進めています。

問 一体管理に当たり、有馬図書館の指定管理者に管理運営を行わせることにより、民間活力の導入と施設の有効活用が図られ、利便性向上につながるものと考えますが、市の考え方を伺います。

答 (市長)：設備などが一緒にある図書館との複合施設であるため、指定管理者への一体管理も含めて検討していくたいと考えております。



困っている子どもへの  
支援について

じゅうじの会 田中 ひろこ

問 不登校になつたら、学校以外に行ける場所がないというのは今の時代おかしいことです。学校にとらわれず、さまざまな人に出会い、自分を肯定して生きていく喜びを味わうことができるよう、行政にできることはあると思います。

ある保護者は「学校は不登校を理解してくれず家族だけで途方に暮れています」と言います。また、「同じような思いをしている子ども同士で友達ができるれば心強いし、親の自分も苦しい気持ちを話せる場が欲しい」と言つた保護者もいます。

世田谷区教育委員会では、「保護者のつどい」として、同じような悩みを持つ保護者同士が語り合うことで、辛さや不安を分かち合う場を設定しています。カウンセラーが全体のコーディネーターをしており、安全な場になっています。昨年は、「保護者のつどい」を18回開催し延べ223人が参加しました。この取り組みが成功した理由は、途中退席、匿名での参加が可能で、事前予約が不要という配慮です。不登校を学校だけの問題にせず、保護者の集いや子どもの居場所が必要ですが、いかがでしょうか。

答 (教育部長)：びなるーむ主催で「教育セミナー」を毎年開催しており、講師を呼び不登校をテーマにして、関係者や市民に参加を呼びかけています。

保護者の意見交換や悩みを共有する場などになつており、よりよいあり方を引き続き研究してまいります。



歯と口腔の健康づくりについて

公明党 日吉 弘子

問 歯と口腔の健康を保つことは生活習慣病や介護の予防につながり、生活習慣の基礎をつくり、全てのライフステージにおいて大切であり、特に妊婦自身の歯の健康が家族の意識に影響を与えます。

現在の集団妊婦歯科健診から個別受診に変更することなどを希望をしましたが、平成30年度の実施状況についてお伺いします。

答 (保健福祉部次長)：これまで母親教室で実施していた妊婦歯科健診については、「ご意見などをいただきながら検討した結果、平成30年度からは市内指定医療機関で受診すること」とし、また、受診対象者を全妊婦に拡大したいと考えています。

問 受診券の配布時に、歯科健診の重要性や口腔ケアに対する予防のための啓発チラシの配布が必要であると思いますが、見解を伺います。

答 (保健福祉部次長)：対象者の拡大により、さらなる効果を目指したいため、受診券配布時に、チラシ配布などによる意識の啓発を前向きに検討したいと考えています。

問 県のモデル事業で、オーラルフレイル事業を実施しますが、一生にわたる歯のケアの大切さや各年代に合わせた市の取り組みなどを、ホームページに入れたり、広報えびなにより、啓発の充実をさせることについて見解を伺います。

答 (保健福祉部次長)：機構改革により、各世代別の健康づくりを検討していきたいと考えています。

その他の質問

・障がい者支援について  
・小中学校ICT活用教育について

